

認定書

国住指第 1425 号
令和 2 年 10 月 16 日

シーシーアイ株式会社
代表取締役社長 岡部 鉄也 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 4 第 1 項第七号ハ（防火区画貫通部 1 時間遮炎性能）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
PS060WL-1124
2. 認定をした構造方法等の名称
被覆材付硬質ポリ塩化ビニル管/熱膨張材・合成ゴム系発泡体/壁準耐火構造/貫通部分
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：
被覆材付硬質ポリ塩化ビニル管/熱膨張材・合成ゴム系発泡体/壁準耐火構造/貫通部分

2. 寸法等の仕様：
寸法等の仕様を表1に示す。

表1 寸法等の仕様

項 目		仕 様
開口部	形状	円形(φ153mm以下)
	面積	0.0184m ² 以下
占積率 (開口面積に対する被覆材付配管の断面積の割合)		85.8%以下
被覆材付配管と壁との隙間の寸法 (クリアランス)		5.0~13.5mm
貫通する壁の構造等		建築基準法施行令第112条第2項に掲げる基準に適合する壁構造(60分)又は建築基準法第2条第七号の規定に基づく壁構造(60分)厚さ 139mm以上

3. 主構成材料の仕様：

主構成材料の仕様を表2に、配管の構成材料を表3に示す。

表2 主構成材料の仕様

項目		仕様		
被覆材		材料	無機質混入樹脂シート・ウレタンフォーム積層材	
		使用箇所	直管及び管継手の外層被覆材	
		処理方法	両側の壁際から300mm以上被覆	
	表面材	材料	仕様：あり又はなし 種類：①又は② ①ポリエステル系樹脂(ポリエチレンテレフタレート等) ②ポリ塩化ビニル系樹脂	
		厚さ	70(±30)μm	
	樹脂シート	材料	種類：①又は② ①無機質混入オレフィン系樹脂 (表面材は①又は②) ②無機質混入ポリ塩化ビニル系樹脂(表面材は①又は②)	
		組成(質量%)	非公開	
		厚さ 密度	非公開	
	基材	材料	ウレタンフォーム	
		厚さ 密度	非公開	
貫通部材	保護テープ	中空側	材料	非公開
			厚さ	
		寸法		
	配管側	材料	非公開	
		厚さ		
		寸法		
	保持部材	材料	鋼板	
		厚さ	非公開	
		寸法		
	熱膨張材	本体	材料	非公開
			質量	
			組成(質量%)	
		包装材	材料	
厚さ				
寸法				
支持部材	材料	鋼板		
	厚さ	非公開		
	寸法			
	数量			

つづく

つづき

目地材	本体	材料	非公開
		寸法	
	ジョイントテープ	材料	非公開
		組成 (質量%)	
厚さ			
寸法			

表3 配管の仕様

項目		仕様	
配管	直管・横枝管	材料	硬質塩化ビニル管 (JIS K 6741、記号：VU、VP)
		外径	φ114mm以下
		厚さ	3.5mm以下(記号：VU) 7.1mm以下(記号：VP)
	管継手	材料	仕様：あり又はなし 種類：①又は② ①屋外排水設備用硬質塩化ビニル管継手 (塩化ビニル管・継手協会、AS 38、記号：VUDV) ②排水用硬質塩化ビニル管継手 (JIS K 6739、記号：DV)
		受口外径	φ124mm以下
		厚さ	4.6mm以下(記号：VUDV) 4.3mm以下(記号：DV)

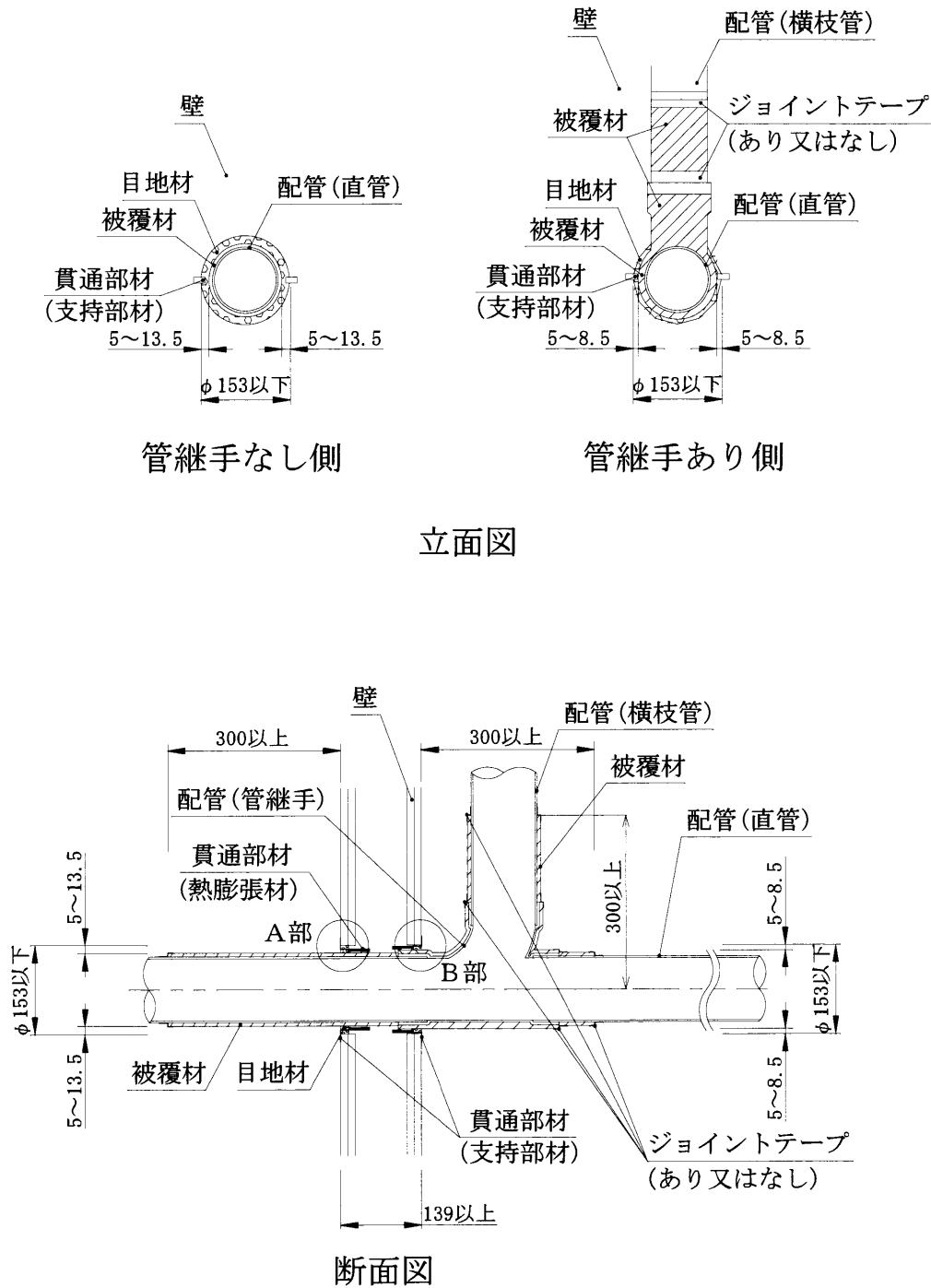
4. 副構成材料の仕様：
副構成材料の仕様を表4に示す。

表4 副構成材料の仕様

項目		仕様	
ジョイントテープ	材料	仕様：あり又はなし オレフィン樹脂フィルム(ゴム系粘着材付)	
	組成 (質量%)	非公開	
	寸法		

5. 構造説明図：
 構造説明図を図1～図7に示す。

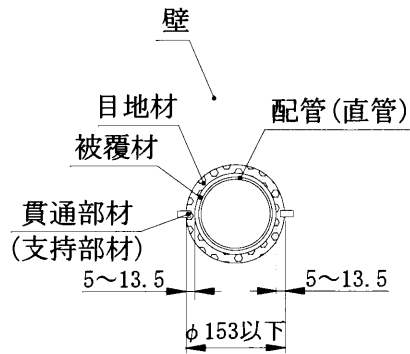
単位 mm



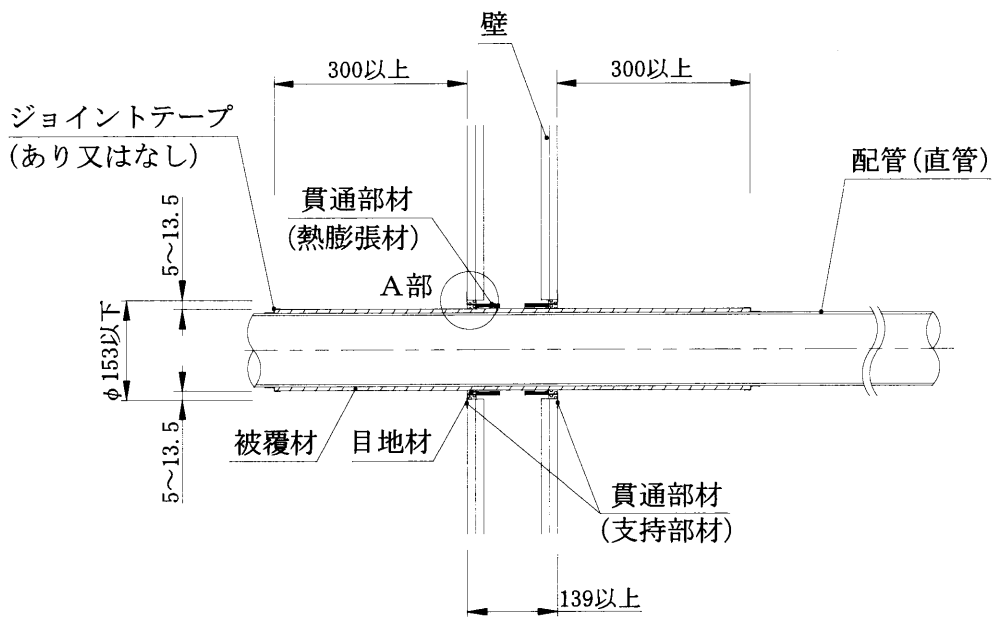
- 1) 中空壁等の場合
- 2) 管継手を用いる場合

図1 構造説明図(施工図)

単位 mm



立面図

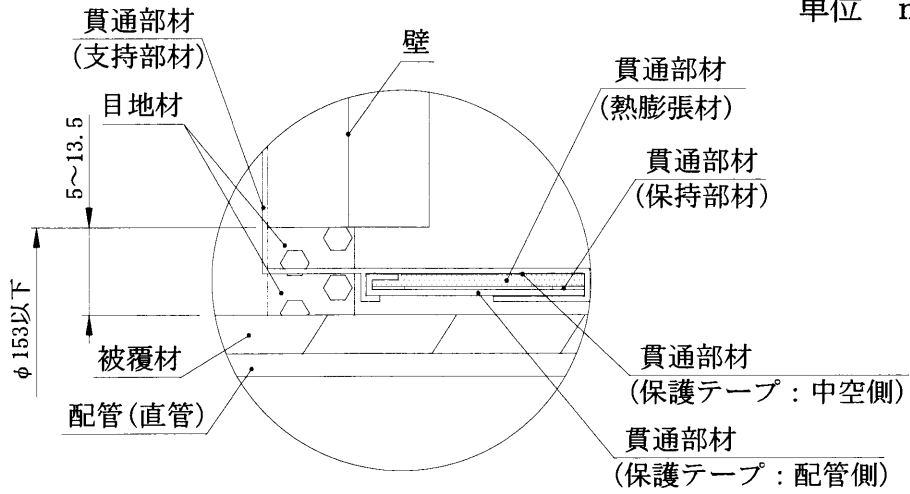


断面図

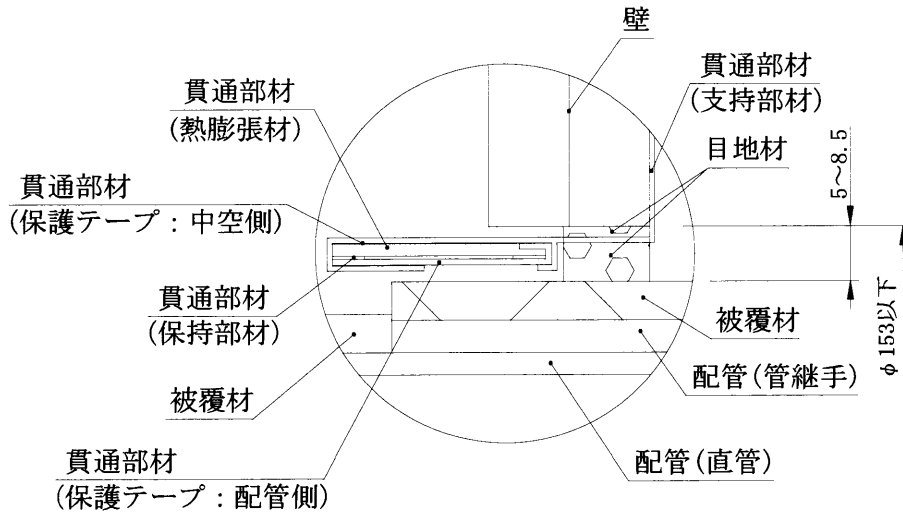
- 1) 中空壁等の場合
- 2) 管継手を用いない場合

図2 構造説明図(施工図)

単位 mm

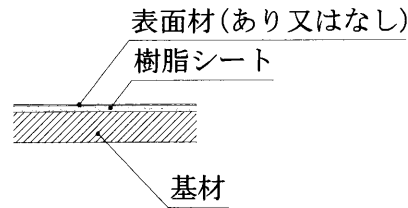


A部詳細図



B部詳細図

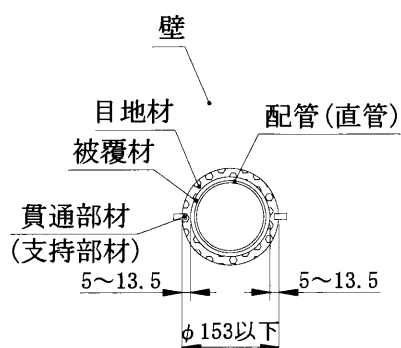
- 1) 中空壁等の場合
- 2) 管継手を用いない場合 (A部詳細図)
- 3) 管継手を用いる場合 (B部詳細図)



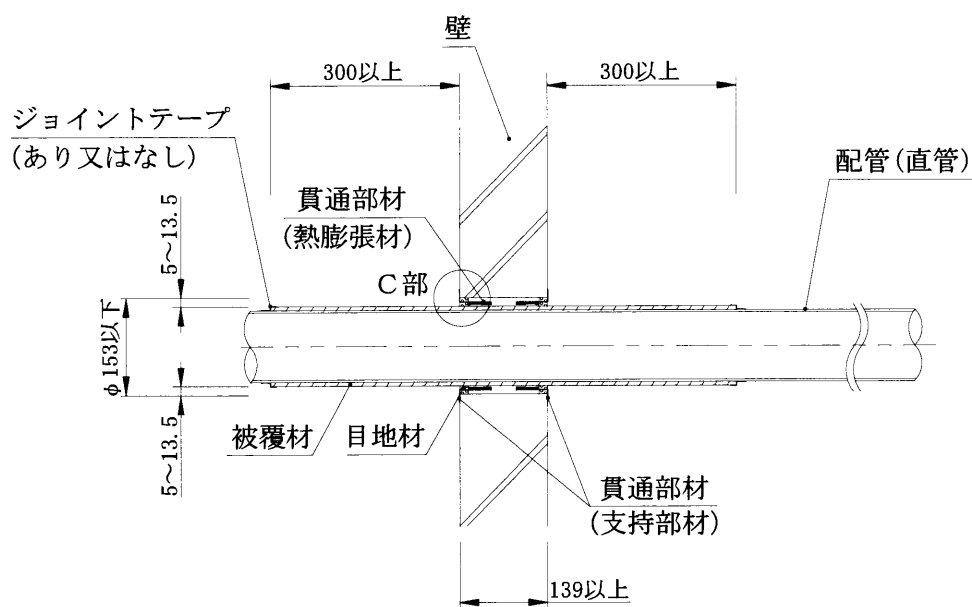
被覆材詳細図

図3 構造説明図(施工図)

単位 mm



立面図

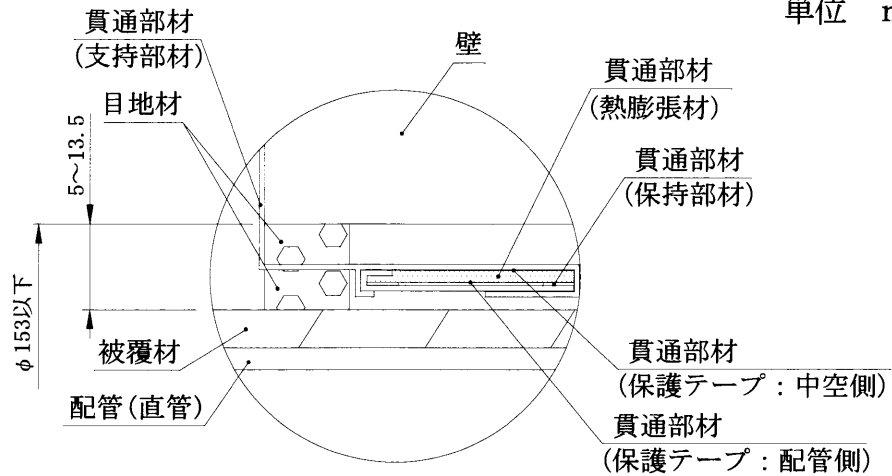


断面図

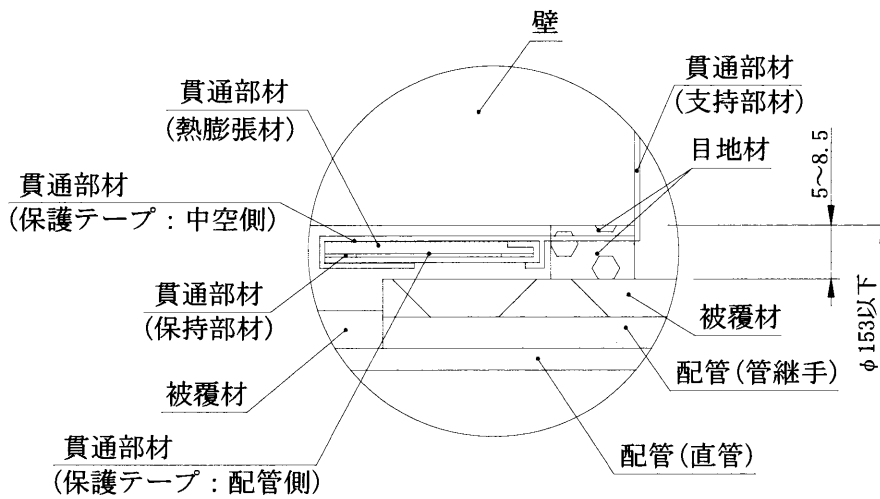
- 1) 中空壁等以外の場合
- 2) 管継手を用いない場合

図5 構造説明図(施工図)

単位 mm

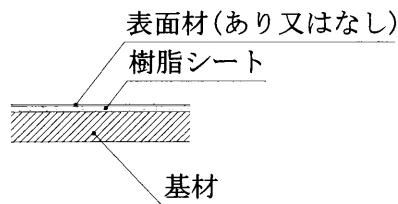


C部詳細図



D部詳細図

- 1) 中空壁等以外の場合
- 2) 管継手を用いない場合 (C部詳細図)
- 3) 管継手を用いる場合 (D部詳細図)



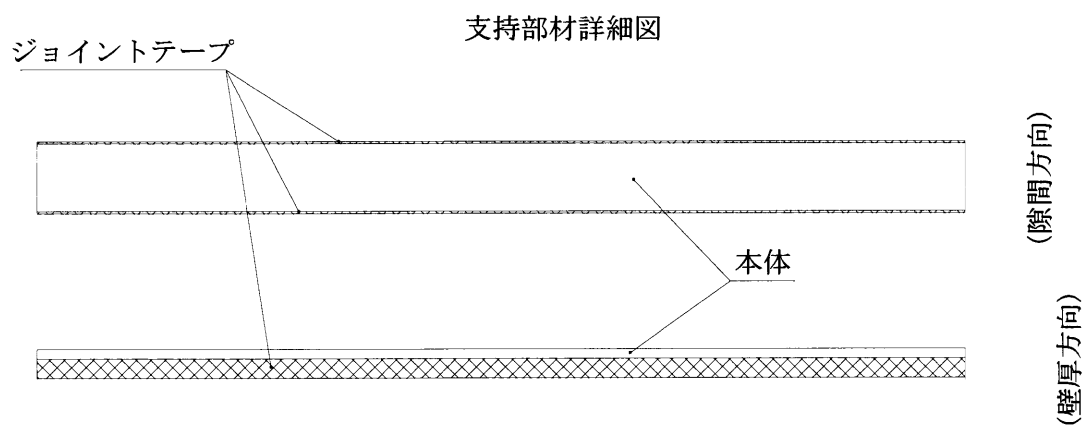
被覆材詳細図

図6 構造説明図 (施工図)

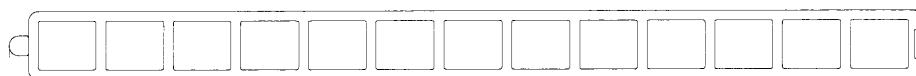
単位 mm



※ツメ部を折り曲げてA～D部詳細図(図1～6)に示すように他の部分
(熱膨張材・保護テープ・保持部材)を開口部内に固定する



目地材詳細図



保持部材詳細図

貫通部材を構成する部品の詳細図：支持部材及び保持部材

図7 構造説明図

6. 施工方法：

施工は以下の手順で行う。

(1) 直管に施工する方法

- ①被覆材付配管の設置を行い、支持・固定する。
その際、配管の被覆材長さは、壁の左右面から300mm以上であることを確認する。
- ②被覆材の端部は必要に応じてジョイントテープで1周以上覆う。
- ③被覆材付配管の外周部に沿って、貫通部材を巻き付け、環状に支持する。
- ④貫通部材を壁内部に納まるように挿入する。
- ⑤開口部と被覆材付配管の隙間に目地材を入れる。

(2) 管継手に施工する方法

- ①被覆材付配管の設置を行い、支持・固定する。
その際、被覆材付配管の被覆材長さは、壁から 300mm 以上であることを確認する。
- ②被覆材の端部は必要に応じてジョイントテープで1周以上覆う。
- ③貫通部材を被覆材付管継手に巻き付け、環状に支持する。
- ④被覆材付管継手を壁内部に挿入する。
その際、被覆材付配管の被覆材長さは、壁から 300mm 以上であることを確認する。
- ⑤開口部と被覆材付管継手の隙間に目地材を入れる。